



日本プライマリ・ケア連合学会  
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記  
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区  
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A  
あゆみコーポレーション内  
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055  
E-mail jpca@a-youme.jp  
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.33 (2021.9)

## 報告：兵庫プライマリ・ケア カンファレンス 2021 夏 開催！

伊藤 まどか (甲南医療センター／神戸市)

2021年9月5日(日)に近畿圏を対象に、ポートフォリオ添削をメインイベントとした Zoom カンファレンスの記念すべき第1回目が行われました(専攻医15名、指導医10名、見学者8名)。ポートフォリオの深め方が分からない専攻医、プライマリ・ケア教育のレベルアップを行いたい指導医などが集まり、熱い議論を交わすことで、それぞれの NEXT STEP を見つけて帰ってくれたことと思います。本企画は2月のポートフォリオ発表会を目標とし、秋：11月7日(日)には2回目の開催を予定しておりますので、興味をお持ちの方は2回目からでも是非ご参加ください。

### 【印象的な事例や議論のやり取り】

アイスブレイク後のショーケースポートフォリオでは成瀬瞳先生(金井病院／関西家庭医療学センター)に発表頂き、Reflection IN Action(リアルタイムでの自己省察+妥当な試行錯誤)、Reflection ON Action(事後の自己省察+文献的考察)を始めポートフォリオの極意を伝授して頂きました。その後、各グループに分かれてポートフォリオ添削を行ったのですが、自らの苦悩や陰性感情などを文章にすることの難しさを感じておられる専攻医も少なくありませんでした。指導医と事例について検討する中で、どのように転換し変わっていったかアピールポイントを見つけ、事例を自分の中で落とし込み、一般化し、次の診療へつながる道筋を立てられたのではないかと思います。

### 【専攻医や指導医に向けてメッセージ】

最初は作るのが難しいと感じるポートフォリオですが、指導医も実はどうサポートするか悩んで試行錯誤しています。いつもの枠を超えて、いつもと違った指導医や専攻医と出会うことで、得られる発見や展望もあるかもしれません。ポートフォリオは、「自分自身の冒険の旅の成長物語を書いている」と表現される指導医もいるくらいで、何気なく過ごしていたのでは気づけない自分の成長を言語化する最適なツールだと思います。そのことで、成長を客観的に見直し、固定化する大事なステップになりますので、この機会に是非取り組んでみてください。



(参加者で記念撮影)

## 特集1：近畿の話題（今回は、滋賀、和歌山からです）

### 滋賀県湖北の地から～親子継承してみました～

中村 郁恵（岡崎医院／長浜市）

2021年4月から実家の診療所で父娘、2人診療をしています。岡崎医院は1995年に父が開設した診療所で、当時から24時間の在宅診療をしていました。私が初期研修医時代に、プライマリ・ケアを専門にしようと決めてから、いつか岡崎医院に帰ろうと思っていました。初期研修後、滋賀家庭医療学センター@弓削メディカルクリニックで専攻医研修を修了し、その後、浅井東診療所で北海道家庭医療学センターのフェローシップを修了しました。研修中に二人の子供にも恵まれ、時短勤務をしながら、修了できたのは雨森先生、松井先生をはじめ、指導医の先生達と一緒に働いてくれた仲間のおかげです。本当にありがとうございました。

そんなこんなで、今年4月から父と診療を始めました。薬の選択から検査、訪問診療の仕方、職員への対応など、診療／経営等、様々な点で、お互いに多くのカルチャーショックを受けています。

また、地域の方の声から、父が積み上げてきたものの重みや地域からの期待を感じます。「うちの大ばあちゃんとはあちゃんは岡崎先生が家で看取ってくれたんよ。うちはどうなるかと思ったけど、娘さんが来てくれたら安心やね」私が外来で「困ったらいつでも電話して下さい。家まで伺います」と話すと「岡崎先生と同じやね。ありがとう。ここだけが頼りやから、心強いです」などと言って頂き、有難さと同時にプレッシャーも感じています。診療所が継承されていく意味も日々の診療を通し、実感しています。

今後も24時間の在宅診療を継続しますが、一番不安なのは「毎日の往診待機」です。今までグループ診療の診療所に勤めていたこともあり、さらに、私に小さい子どもがいたため、待機が免除されていました。現在も週の半分は父が待機です。仕事から離れる時間が持てることは、本当にありがたいです。しかし、父はいつまでもいてくれるわけではありません。では、グループ診療に移行しては？とも思いますが、一緒に働いてくれる医師を探す大変さはよく知っており、すぐには難しいと感じています。（長浜で一緒に働いてもいいよ！という方がいれば、ご連絡お待ちしております！）

今後の在宅診療について考えると、やはり地域での診診連携、病診連携が必須だと考えます。24時間の在宅を一人で支えており、困難さを感じている先生が他にもいるのではないかと思います。休日急患診療所のように在宅の待機を輪番制のように、お互い必要な時には助け合える体制があれば、どれほど心強いかなと日々感じています。

COVID19の感染拡大が収まらない中、感染症対策、ワクチン業務、発熱外来など、多くの負荷が増えたタイミングで実家が二人診療所となり、一緒に診療ができていることは非常に有難いと感じています。微力ですが、これからも地域医療の発展に尽力していきたいです。



## 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院、橋本市民病院における 総合診療プログラム取組と COVID-19 対応

廣西 昌也 (和歌山県立医科大学附属病院 分院長/和歌山市)

千田 修平 (橋本市民病院 総合内科 和歌山総合診療プログラム/橋本市)

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院は日本専門医機構の総合診療医プログラム (和歌山県総合診療専門研修プログラム) を統括しています。現在は 3 名の専攻医が橋本市民病院で、1 名が国保すさみ病院で研修を行っています。本年度からの重点事項として、訪問診療・往診事業の準備を段階的に行っており、まだ人数も少なく本格的な稼働には至っていませんが、今後看取りを含め機能拡大、ブラッシュアップをはかっているところです。

今回のコロナ禍において、紀北分院と橋本市民病院が主体となり、和歌山県伊都・橋本地域の COVID-19 患者の入院対応を行いました。紀北分院では 2021 年 7 月までに 412 人の COVID-19 患者を受け入れましたが、刻々と変わる情勢のなかで情報の整理や意見調整、病棟利用の変更やスタッフのメンタル管理、あるいは地域とのワクチン接種調整など非常に多くの課題があったのは他の地域の医療機関とも同様かと思えます。第 3 波では患者数が多かったこともあり、重症化リスクの高い方も多く入院されましたが、デキサメサゾン、デミデシビル、バリシチニブなどの積極的に使用することにより、重症化を抑制できたと考えています (論文投稿中)。また精神科医師に依頼し、ほぼ全スタッフにストレスコントロールのための面談も行いました。また感染拡大早期より感染者に対してリハビリを積極的に行い、廃用症候群の予防を行なっております。

橋本市民病院では、1 つの病棟を COVID-19 患者専用病棟とし、一般入院と並行し対応をしております。患者層も様々ですが、高齢者施設のクラスター発生時には隔離にともなう「コロナ廃用」とも言える廃用症候群を経験いたしました。現在ではその経験を活かし、紀北分院と同様リハビリ部門や看護部と協力し、隔離対応中でも必要なリハビリを実施できる環境整備を行いました。この災害とも言える環境の中でも、より良い医療を提供するため、日々試行錯誤行い、精進しております。

## 特集 2 : 第 34 回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会のお知らせ

同地方会実行委員長 島田 史生 (大阪医科薬科大学病院 総合診療科/高槻市)

前号に引き続き、今回も 11 月 28 日 (日) に完全オンラインにて開催される第 34 回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会 (以下、本会) での企画について、皆様にご紹介いたします。

### ■特別シンポジウム「地域はコロナ禍とどう向き合ったか？」

新型コロナウイルス感染症の流行 = コロナ禍はいまだ収束が見通せず、多くの診療所・病院で診療に深刻な影響が現れています。現在、コロナ禍への対応は医療機関から介護・福祉施設や在宅の場へも広がっており、様々な取り組み・経験が日々蓄積されていることを踏まえ、このシンポジウムではその経験を共有することを目的として企画いたしました。病院におけるクラスター対策の取り組み、地域の中核病院でのコロナ診療、介護施設で発生したクラスターへの対応、在宅診療での取り組み、そして行政の立場から、それぞれ第一線でご活躍の先生方に発言頂きます。コロナ禍対応のこれから、そして今後発生し得る新たな感染症パンデミック対応への示唆も含め、参加者も交え議論していきます。

### ■シンポジウム 1 「小児から成人へ 移行期医療の担い手としての総合診療医・家庭医」

小児慢性疾患の治療成績向上により、多くの小児が思春期・成人期を迎えるようになり、小児医療から成人医療への円滑な移行の必要性が叫ばれています。小児医療からは、臓器別にとらわれず全人的な医療を提供でき、各成人科と協力しながら多職種と連携することができる医師を求める声があり、総合診療医や家庭医は移行期医療の担い手として期待されています。

本企画では3名のシンポジストが、これから移行期医療に携わることになる総合診療医・家庭医に向けて移行期医療の特性や医師に必要な態度・技術などについて講演し、その後視聴者も含めディスカッションを行います。

### ■シンポジウム2「大阪の地から健康格差を考える」

2018年に当学会は「健康格差に対する見解と行動指針」を公表し、健康格差を学会全体で取り組むべき問題と明記しましたが、私達は今現在何ができているのでしょうか？

大阪では不健康なライフスタイル、劣悪な住環境、家族崩壊など大都市特有の問題に起因する健康格差が顕在化しています。今回は大阪の地で健康格差の最前線に挑む3人のシンポジストをお招きし、参加者全員が問題を自覚し、行動する意識が萌芽するような議論を行います。

この他にも特別講演2「多様なセクシュアリティを支援できるプライマリ・ケア医になるために」、ワークショップ「アフターコロナのアクションプラン@薬剤師」、鈴木富雄大会長に各大学・病院より選出された学生・研修医が診断推論で挑む「ドクターG 企画(仮)」、共催セミナーとして皮膚疾患のレクチャーとポータブルエコーを用いた在宅医療のレクチャー、さらに多数の口演セッションなど、この他にも魅力的な企画を多数用意しています。ぜひ多くの皆様に参加頂けますよう、実行委員一同心よりお待ちしております。



大会HP：<https://www2.aeplan.co.jp/pc34kinki/> QRコード：

## 重要なお知らせ：代議員への立候補をお願いします！

近畿ブロックでは、会員の皆様に、2021年10月14日から始まる代議員選挙に立候補されるようお願いしております。多様性があり、透明性のある学会運営のためには、多くの方のご協力が必要です。今回は、若手、女性、多職種の方にもぜひ、代議員になっていただきたいという観点から、呼びかけのコメントをいただいておりますので、ご紹介します。

### 「必ず当たる宝くじ」を手に入れる方法知りたくありませんか？(30代 男性医師)

この文章を読んでくださりありがとうございます。あなたはニュースレターにまで目を通す特別な存在です。そんなあなたにだけお伝えしたい特別な情報があります。

それは「必ず当たる宝くじ」を手に入れる方法、つまり「ブロック支部代議員」になることです。私たちが目指すのは「あなたの思いを私たちの物語にすること」です。

あなたが総合診療を選んだ理由、その思いを形にするには仲間が必要です。そのためにあなたがやるべきことはただ一つ、立候補することだけです。特にこれまで代議員になったことの無い方にこそおすすめです。あなたの立候補をお待ちしています。

### 代議員になってみよう！(50代 女性医師)

三学会が合同しJPCAが設立された後、どうしても学会が遠かった(何をしているかよくわからない)ので代議員になってみることにしました。なってみると学会の動きやお金の出入り、どんな活動をしているか、また地域の先生方が分かるようになりました。また、自分が必要・重要だと考えていることを、地区の身近な学会の運営や活動に反映させたり(もちろん全てではありませんが)、さらに理事の選挙権を通して学会全体の活動にも間接的に反映させたりすることができます。

とはいえ、目の前のことに手一杯でこのうえ仕事が増えるのかという不安や、そもそも代議員の役割って何？ということもあります。その場合は下記記事が大変参考になります。

近くに仲間がいない、自分は少数派かもと感じる人こそ代議員になってみることをお勧めします。

参考文献：[多様性を意識した代議員立候補のススメ.pdf](#)

## 多様性を受け入れ活かすケアをご一緒に (薬剤師)

今年度、近畿地方会が11月28日に開催されます。皆様、もう申し込みはお済みでしょうか？今回はWEB開催ですので遠方の方にもぜひご参加いただき近畿ブロックの熱気を感じていただければと思います。私は薬剤師で、近畿ブロックの代議員、また大阪支部の運営委員として微力ながらお手伝いさせていただいております。今回の地方会は大阪支部が担当ということで、連日zoomによる運営委員会では、緊張の中にも和やかなムードで当日に向けての話し合いを重ねています。地域に根差した近畿ブロックのお仕事に関わり、多職種で共に作り上げる喜びを強く感じております。

さて今年の学術大会は「～多様性を受け入れ活かすケア～」とてもすばらしいテーマでした。多様性受け入れ後進国の日本においてこれを実践するためには大変な努力が必要だと感じています。委員の大多数が男性もしくは限られた職種だけでは多様性を受け入れ活かすケアの議論は困難だと思われま。今年度はブロック代議員の改選もありますので、これを機に近畿ブロックで活動されている様々な性や職種の方にたくさん参加していただき、共に協力して近畿ブロックを盛り上げていければと願っております。

いかがでしょうか？気になる立候補方法ですが、とても簡単です。

- 1) 会員マイページ [https://www.primary-care.or.jp/member2/login\\_do.php](https://www.primary-care.or.jp/member2/login_do.php) にアクセスし、ログイン。
- 2) 立候補ボタンを押す。

以上です。

詳しくは [こちら](#) をご覧ください。

皆様の立候補をお待ちしております！

## その他

### 近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー & 感動秘話

- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山(畔田)明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生



をゲストに迎え、ポッドキャスト配信を行っています。ぜひ一度お聞きください。

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

**近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！**

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之